



福岡県糸島市「女性の働き方プロジェクト」

活動報告



2022 年度

相模女子大学・相模女子短期大学部

夢をかなえるセンター連携教育推進課



目次

1. 本プロジェクトについて
2. 活動の流れ
3. 活動のまとめ
 - ① 「はたらき方」に関するインタビュー
 - ② プロジェクト OG との交流会
 - ③ 糸島の魅力発信
4. 活動を終えての感想
5. お世話になった方々のご紹介

1. 本プロジェクトについて

今年度私たちは、「女性のはたらき方」を軸として、1年生～3年生の計12人のメンバーで活動してきました。

例年2回糸島に訪問していたのが、ここ数年新型コロナウイルスの影響で中止にならざるを得なくなっていました。しかし、今回は2月に3年ぶりの糸島訪問をすることが出来ました。それまで、メンバーとの会議やインタビュー、プロジェクトOGとの交流会はzoomやSNSで活動してきました。糸島の魅力をもっといろいろな方に知ってもらうため2021年にInstagramの開設をし、糸島の魅力やプロジェクト活動の内容等の投稿を行いました。糸島の概要や糸島に移住した方々へのインタビュー内容などの計26個の投稿をし、現在約300名のフォロワー数を増やすことが出来ました。

糸島市の方とのインタビューをするにあたり、まずメンバーの目的意識を持つため、事前にインタビューする方の情報を集め、質問事項等を考えて実施しました。開催後には必ず振り返りを行い、反省点や改善点を共有して各自課題を見つけるなど次回のインタビューに向けてより良いものにするために努めました。

また、以前糸島プロジェクトに参加されていたOGの方と現メンバーの交流会においては、キャリアや、糸島プロジェクトについてのお話を伺いました。その他、趣味について話すなど参加メンバー全員で親睦を深める交流をしました。先輩方が経験してきたお話を聞き、実際の糸島訪問の際に活かすことが出来ました。

今年度はコロナ禍以降初めてオンライン・訪問の両方の活動で、各チーム試行錯誤しながらチーム関係なく協力して活動に取り組みました。オンラインで交流し学んできたことを通して現地訪問で活かすことができたと感じます。今までのオンライン開催だけでは学べなかったことを実際に訪問することで、より糸島市のことを知れ、経験することが出来、多くの気づきがありました。オンラインを活用して繋がりを持たせた方や実際に訪問し交流できた方々から貴重なお話を聞いたことは、私たち糸島プロジェクトのメンバー一同誇りに思います。

2. 活動の流れ

- 2022年 7/8 第1回ミーティング 対面(顔合わせ)
- 2022年 7/15 第2回ミーティング 対面
- 2022年 7/19 第3回ミーティング (zoom&対面) ※以下ハイブリッド型
- 2022年 8/1 第4回ミーティング ハイブリッド型
- 2022年 8/10 第5回ミーティング ハイブリッド型
- 2022年 9/15 第6回ミーティング ハイブリッド型
- 2022年 10/14 第7回ミーティング ハイブリッド型
- 2022年 11/11 第8回ミーティング ハイブリッド型
- 2022年 11/21 第1回OG交流会
- 2022年 12/1 第1回オンラインインタビュー
- 2022年 12/8 第2回オンラインインタビュー
- 2022年 12/9 第9回ミーティング ハイブリッド型
- 2023年 1/12 第2回OG交流会
- 2023年 1/19 第10回ミーティング ハイブリッド型
- 2023年 1/20 (現地訪問について)
- 2023年 1/31 第3回OG交流会
- 2023年 2/6~2/8 現地訪問
- 2023年 2/21 第11回ミーティング ハイブリッド型
- 2023年 3/15 活動報告会
- 2023年 3/30 第12回 zoom ミーティング(最終回・活動の振り返り)

3. 活動のまとめ

「はたらき方」に関するインタビュー

リーダー：二反田雪乃

副リーダー：市川晴奈

メンバー：木島奈穂／松岡亜優

① 九州熱風法人よかごつ 代表 大堂良太さん

担当：二反田雪乃

学生寮「熱風寮」の運営を通して、学生に様々な支援を行っている九州熱風法人よかごつ代表の大堂さんにインタビューさせていただきました。就職活動で進路について悩んでいるメンバーが多い中、様々な学生と関わってきた大堂さんにお話を聞いたことは大変貴重な経験となりました。

大堂さんは熊本県出身で、九州大学の移転に伴い糸島に関心を持ち、様々な人に糸島について話を聞いているうちに糸島が気に入り、糸島で寮の運営を始めたそうです。寮を始めたきっかけとして、関心のある教育分野×○○の組み合わせを考えたときに、自身の学生時代の寮生活での濃い経験を思い出し、教育との組み合わせに合致すると思い、学生寮の運営をすることを決意されました。寮では日常生活での相談や就職・キャリアのサポートの他、無人島で宿泊を行う等、寮生同士の仲が深まるようなイベントも開催しています。寮を運営している上でのやりがいとして、「この寮に入って良かった。」「寮に入って人生が変わった。」等と言って貰うことで、いち若者の人生の良いスパイスになれたと思うと、この仕事をしていて良かったと思えるそうです。逆に寮などの運営をしている中で大変なことはあるかと伺ったところ、「ない」と仰っていたことが印象的でした。やりたいと思って始めた仕事だから「ない」そうです。今後はやりたいことの決まっている学生の応援や、やりたいことの決まっていない学生向けに対話の中でやりたいことの見つかる場づくりを提供したいそうです。

また大堂さんは今の学生に必要としていることについて、will(自分がやりたいこと・好きなこと)を見つけることが最も大切だと仰っていました。will 以外にも、can(自分ができること)、must(社会が求めていること)もありますが、will が最も見つけることが難しく、大堂さんも will を探すのに2年程掛かったそうです。ただ自分と向き合って考えた結果「教育×寮」というのを見つけることができたそうなので、今の学生にも自分と向き合って will を見つけて天職を見つけてほしいと仰っていました。

大堂さんのお話を伺って「やりたいこと」を見つけ、それを仕事にする楽しさを知ることができました。自分のやりたいことを見つけることは大変ですが、自分の可能性を狭めずに様々な経験や挑戦をしていく中でやりたいことを見つけることが大切だということを学びました。大堂さんのお話は就職活動に限ったお話ではなく、社会に出て進路に迷ったときにも多いに助けになってくれるお話だと思いました。

インタビューを引き受けてくださった大堂さんのご協力に感謝申し上げます。

② 駒澤大学 村上花音さん

担当：二反田雪乃

糸島市出身で大学を機に上京し、東京から糸島に関する発信を行っている、駒澤大学の村上花音さんにインタビューさせて頂きました。大人の方にインタビューさせて頂くことが多かった私たちにとって、歳に近い方にインタビューできたことは大変有意義な時間でした。

村上さんは、糸島の良さをより多くの人に知ってもらうため「糸ドコ。」や「meets 糸島」の活動をされています。「糸ドコ。」や「meets 糸島」では、糸島の人にインタビューをし、それを SNS や記事にして WEB サイトに載せるといった活動をされています。お話を伺った中でも「糸島は行ってみないと良さが分からない。」と仰っていたことが印象的でした。SNS で糸島を見ることはできるけれど、実際に行くと人と話してみることで糸島の魅力が分かるそうです。また、村上さんにとって糸島は「帰りたい」と思える町であるそうです。首都圏に住んでいると、地元の良さが分からない人が多いと思いますが、村上さんは地元の良さをよく知った上で「帰りたい」と思える町があることは素晴らしいことだと思います。糸島の課題としては、伝えたいものと伝えられているもののギャップがあることと、糸島には象徴となる人がいないから糸島市の自治体を中心に思いきりがよい行動をして知名度を広めて欲しいとのことでした。また糸島にしながら「糸島が良い」と言うのではなく、一回糸島を出てから改めて糸島の良さを実感して欲しいとのことでした。

村上さんは、市議会議員から見た糸島をみたいと市議会議員のところで 1 か月間勉強をしたり、「糸ドコ。」や「meets 糸島」での活動を行っていて、上京して東京に出てまでも糸島に関する活動を行なえるというのは素晴らしいことだと感じました。村上さんのお話を聞いて、私も地元に関する関心が変わったように感じます。同世代目線からの糸島に関するお話を聞けて、大変光栄でした。

インタビューを引き受けてくださった村上さんのご協力に感謝申し上げます。

③ 株式会社まんま 代表取締役 中村真紀さん

担当：市川晴奈

2020年に福岡県糸島市に移住され、株式会社まんまの代表取締役である中村真紀さんにインタビューをさせていただきました。糸島中心部の商店街でビジネスパートナーの大堂さんと本棚シェア型の本屋さん「糸島の顔がみえる本屋さん」を経営されています。他にも、コーチング、経営アドバイス、女性管理職支援、地域活性化活動など様々な活動を行っています。同じ女性として、人生を豊かにするために何事にも挑戦する姿に感銘を受け、社会での女性活躍を近くで感じ、現代の女性の在り方を学ぶことができ、とても貴重なインタビューとなりました。

【糸島市移住のきっかけ】

以前から糸島市の存在は知っており、友人が住んでいたことから旅行で訪れ、居心地の良さと面白さに惹かれていったそうです。糸島市には海と山の両方の自然を感じ、都市と田舎の両方を味わうことができます。中村さんは以前、東京で勤務されており、都会の会社で勤務する人々に対し、糸島市の方々は好きなことを追求し、一生懸命に生きている方がたくさんいるとお話しされていました。糸島市の人は面白く、自由に生きており、困ったことがあればみんなが協力してくれる、そんなところが糸島市の魅力でもあると思いました。転機となったのは、東日本大震災と新型コロナウイルスでした。震災やコロナ禍をきっかけに、糸島市の訪問が難しくなり糸島ロスになってしまったそうです。世の中に対しての価値観が大きく変わり、自分の生き方を見つめ直したうえで移住を決断したそうです。

実際に移住し、私たちも動物であるため生きていくうえで自然の存在が必要不可欠であり、恩恵を受けているということに気づかされたそうです。また、東京は高いビルに囲まれ空を眺める機会が少なく、糸島市では季節によって日が沈む位置が変わる自然の変化に気づくことができ、ありがたみを感じることができたそうです。

【コミュニケーションをとるうえで大切にしていること】

多くの質問の回答の中で私が特に印象的だったのが、中村さんがコミュニケーションをとるうえで大切にされているという「相手のかけているメガネの度数は違う」という考え方です。今大事にしていることは、みんな違うということを念頭に置き接することが大切であるということです。育ってきた環境や価値観は一人一人違います。そのため、その場にたまたま居合わせた人が必ずしも同じ景色を見ているとは限らず、どちらが正しいのかを図ることはできません。この世界を生きている人々は、それぞれ度数の

違ったメガネをかけており、自分と同じ景色が見えているわけではないのだと改めて認識することができました。始めから相手の考え方を決めつけるのではなく、好奇心を持つことが大切であると学びました。

【女性の働き方について】

女性の働き方について、「みんな違う個性を持っていて、個性を大切にすることが大事であるとおっしゃっていました。中村さん自身が今まで社会で女性活躍をされてきたからこそ体験することができた、貴重なお話を伺うことができました。近年では女性の社会での活躍が多くみられるようになりましたが、以前の労働は男性が中心の印象があり、中村さん自身も女性らしさの個性を抑え、男性のような働き方をされていたそうです。しかし、合わせる必要はない、誰がいけないということはないということに、女性だからこそ気づくことができたそうです。自分を抑えるのではなく自分の個性をうまく出し、一人一人が表現することで個性を活かした無限の可能性へとつながっていくのだと思います。女性はまだまだ社会で活躍できると強い希望を感じました。

④ カフェリリー 眞木由利佳さん

担当：松岡亜優

糸島市でカフェを経営されている眞木さんにインタビューをさせていただきました。眞木さんの元気で明るい笑顔と、カフェリリーの温かい雰囲気には私たちはパワーをもらいました。それと同時に、自分の好きなことを通して多くの人に伝えたいという眞木さんの強い思いを感じることができました。

【眞木さんの経歴】

眞木さんは、高校卒業後4年間オーストラリアに行き、そこで出会ったカフェで、これからの人生でカフェを開きたいと思っていた夢を叶えたいと強く思いました。オーストラリアでコーヒーの知識を学び、帰国後の日本で、就職した先でご縁があり、2020年に古民家を利用した伊都安蔵里でカフェリリーをオープンしました

眞木さんはカフェを経営するにあたって心がけていることとして、温かい環境づくりと心地のよい接客を意識していると教えてくださいました。実際にカフェリリーを訪問し、インタビューをさせていただいた時も、眞木さんを含め、スタッフの方たちの笑顔と雰囲気からも感じるすることができました。また、席一つ一つにも工夫がされていました。テーブル、椅子、ソファは眞木さんがカフェリリーに合うものを選んでおり、家具一つ一つのこだわりからも感じました。外の景色が楽しめる席や、子供連れのお客さんも安心して過ごせるよう、子供が遊べるスペースがある席、お一人でもゆっくり自由に過ごせる席などと、お客様を考え

た席でした。眞木さんは、お客様自身がそれぞれに合った席をみつけてほしいとお話ししてくださいました。眞木さんの一つ一つのこだわりから、カフェに対する思いをより感じることができました。

眞木さんがなぜこのようにお客様のことを考えた環境づくりや、お客様にとって心地よく過ごせられるような接客ができるのかは、オーストラリアで出会ったカフェが大きな理由だと、インタビューをさせていただく中で感じました。眞木さんがオーストラリアに行ったのは高校卒業後、自分の意志ではなくお母様に行かされたとおっしゃっていました。そのため、英語も話せず、日々、これからどう生きていこうと考えていたようで、ネガティブな気持ちだったと眞木さんはおっしゃっていました。ですが、オーストラリアで出会ったカフェでは、お客様がそれぞれの時間を過ごしていて、心地がよかったそうです。眞木さんは、オーストラリアのカフェでポジティブになれたとお話ししてくださいました。眞木さんが、カフェに対する想いは、眞木さん自身が体験した「心地のよいカフェ」を自分も作り、多くの人に伝えたいという思いからくるものだとお話を聞いて感じました。また、眞木さんはインタビューの中で、「お客様にカフェリリーで世界、人生を広げてほしい」という言葉からも眞木さんのカフェに対する強い想いを感じることができました。

眞木さんはインタビュー中、笑顔で楽しく私たちにお話をしてくださり、眞木さんの素敵なおところがお客様からも愛される理由だと感じました。また、働き方や生き方として、好きなことを追求し、試行錯誤し続ける眞木さんのお話を聞いたことは、これからの人生で非常に学びとなるものでした。

インタビューを快く引き受けてくださった眞木さん、ご協力いただいたカフェリリーの方々に感謝申し上げます。

⑤ 糸島ゲストハウス 前原宿ことのは 野北佳奈さん

担当:木島奈穂

昨年度に引き続きインタビューさせていただいた野北さんには、これまでの人生経験やそこから感じたことや得たものをお聞きし、私たちの今後の人生設計に役立つお話をお聞きすることができました。

野北さんは現在、ご夫婦で糸島にてゲストハウスを運営されています。ゲストハウスを運営される前は、世界一周の旅をされていたそうで、主に世界一周のお話とゲストハウスの経営についてお聞きしました。

世界一周については私たち学生にとっては夢のようなお話で、興味を持っている学生が多く、海外での生活について質問をさせていただきました。世界一周はもちろん、海外へ行くことは勇気のいることで中々踏み出せないことだと思います。しかし、野北さんは海外で

沢山の人と関わり、人との出会いが大切だと感じたとおっしゃっていました。そして海外のお話をされているとき、楽しかったと笑顔でお話されていました。海外へ行くことに限らず、何か一步踏み出して行動することは勇気がいります。しかし、たった 1 回の人生ならやらない後悔より、やって失敗をした後悔のほうが身に付くことや学ぶことが多いのだろうと感じました。

ゲストハウスの経営についてですが、野北さんはお客様をととても大切にされているように感じました。お客様の笑顔を見ることはやりがいに繋がるとおっしゃっていて、私個人の話になりますが、接客業は向いてないと感じていましたが、ゲストハウスを現在経営されている方のお話を聞いて、とても素敵な職業だと感じました。また、野北さんが経営されているゲストハウスは多くのこだわりがあり、野北さんがお客様を 1 番に考えて作られた空間であることと、野北さんご夫婦の優しい人柄によって、糸島の人に愛される場になっていると感じました。そこから、何事も努力が必要でその努力は大変なこともあるかもしれないけど、結果に繋がったとき、達成感を得られるのだと感じました。

世界一周とゲストハウス経営という、とても貴重な経験をされている方にインタビューできて感銘を受けました。野北さんはインタビューを快く受けてくださり、私たち学生の話をお身に聞いてくださって、とても素敵な方でした。この出会いも大切にしていこうと思いました。

「プロジェクト OG との交流会」

リーダー：相原琴音

メンバー：湯本夏帆／渡辺采馨

本年度は、昨年に引き続き、プロジェクト OG の方々との交流会を開催しました。私たちは、OG の方との距離を縮めながら交流を深め、実際に糸島市への訪問でそれらの内容を活かす目標を掲げて、活動を行いました。

交流会は3日間の開催で、計5名のOGの方々が参加してくださいました。当時のプロジェクト活動やアドバイス、就職活動等の貴重なお話を伺うことができました。

【協力して下さったプロジェクト OG の方々】

2019年度参加	管理栄養学科	4年生	鎌田朝子さん
2019年度参加	社会マネジメント学科	4年生	松下稚奈さん
2019・20年度参加	メディア情報学科	2022年度卒業	水木愛さん
2018・19年度参加	健康栄養学科	2020年度卒業	吉原なる花さん
2017・18年度参加	健康栄養学科	2019年度卒業	小池由佳さん

本プロジェクト参加経験のあるOGの方々とオンライン会議システム(zoom)を利用した座談会を行いました。円滑に進行するために、自己紹介や全体の司会を相原。レクリエーションの司会を湯本。インタビューの司会を渡辺。それぞれのコーナーでの担当を振り分け、皆で支えながら交流会を進めていきました。事前に現糸島プロジェクトメンバーからOGに聞きたいことを募り、インタビュー内容をまとめ、当日は様々なお話を伺いました。具体的には、糸島市でのプロジェクト活動の経験談や、エピソード。就職活動でのアドバイスや応援メッセージまで、多岐に渡る質問に答えてくださりました。途中で、レクリエーションを交えながら親睦を深めることもでき、メンバー一同とても有意義な時間を過ごすことができました。

【交流会メンバー感想】

最初は進行をしていく中で少し不安と緊張がありましたが、実際にやるとだんだんと緊張が解けていきました。また意識したことは、相手の話を聞くときは大きく頷いたり、笑顔を大きく見せることです。少しトラブルや時間が押している場合は皆でカバーしながらできたと思います。延期などもありましたが、無事終われたことがとても嬉しかったです。ま

た、OGの方や交流会メンバーとゲームやお話しを通して、仲良くなれたのも楽しかったです。OGの方とは今後機会があればこれからもぜひ関わっていきたいと感じました。また、今後もまとめるといった役割についた時は、このような経験を元に、今回以上のことができたらいなと思います。

相原琴音

日程調整に時間がかかり、交流会の開催が予定よりも大幅に遅れたため、OGとの連絡、日程調整の仕方を来年度のメンバーに共有したいと思いました。交流会参加数は、3日間OGの方が1人になることがなかったので良かったです。交流会では、ゲーム・質問共にOGの方が楽しそうにしてくださったため、より良いものになりました。未熟な進行でしたが、皆さんノリが良く、とてもはかどりました。どの質問にもたくさんの感想が聞け、就職活動・プロジェクト共に参考になる意見ばかりでした。糸島市での体験談を皆さん楽しそうに話していたため、OGの方の体験談を聞く時間はとても良かったと思いました。

湯本夏帆

3日間の開催でどちらとも皆さんと楽しく交流ができました。日程調整や、交流会の準備等で苦戦することもありましたが、メンバーの皆に助けをもらいながら、協力し合い無事に交流会を終えられたと思います。

OGの方から糸島での経験談やエピソード、貴重な就職活動のアドバイスなどを聞いたのでとても嬉しかったです。この交流会の活動で、実際の糸島市訪問での活動や、就職活動などに活かすことができ、とても有意義な時間であったと感じます。これからは私たちがOGとして、次年度以降のプロジェクトに関わり、アドバイスできたらなと思います。

渡辺采馨

糸島の魅力発信

リーダー：新井美鈴

副リーダー：板敷華花

メンバー：田中琴巳／高橋華緒

近年、テレビや SNS で話題の福岡県糸島市は、2010（平成 22）年 1 月 1 日に旧前原市・旧志摩町旧二丈町が合併し『糸島市』が誕生しました。（糸島観光サイト『つなぐいとしま』より）。場所は福岡県福岡市の西側にある都市です。糸島市は都心部へのアクセスも良く、漁業や農業、さらに畜産も盛んなこともあり、海の幸山の幸に恵まれた土地でもあります。そんな糸島市は、福岡市民の憩いの地として、デートや日帰りプチ旅行、ドライブに人気の観光エリアです。

【訪問の所感】

昨年度のプロジェクトメンバーが開設した Instagram を引き継ぎ、2022 年 11 月 24 日に Instagram を再始動させました。そこから糸島市訪問までの約 2 か月間、私たちは「外から見た糸島」を中心として主にオンラインインタビューの様子や、訪れたいスポットの紹介（櫻井神社・白糸の滝）を投稿しました。そして、2023 年 2 月 6～8 日に実際に糸島市に訪れました。

私たち自身が Instagram で情報発信をする中で使用していた写真は、糸島市役所の方から提供してもらったものや、無料で使用することができる画像などで、実際に訪れたことのない私たちは写真でしか糸島市を見たことがありませんでした。実際に訪問して、写真で見ていたものと差異のない、またはそれ以上に綺麗な糸島の風景に感動しました。また、写真では伝わらないほど綺麗で澄んだ空気や波の音などを肌で感じることができました。そして、オンラインでインタビューをさせていただいた方のもとにも伺い、再度インタビューをさせていただきました。画面越しでしか顔を合わせていなかった方と実際にお会いし、糸島市で暮らす方々の温かさを身に沁みて感じました。

糸島市は良い意味でギャップがない、でも訪れることでそれ以上の魅力を感じられるような素敵な場所だと思いました。

【海・山おすすめポイント】

都心周辺に住んでいるとあまり自然と触れることが少ないですが、糸島には自然が多くあります。私たちが実際に訪問一日目に訪れた「二見ヶ浦夫婦岩」では透き通ったとてもきれいな海があり、波の音を聞きながらのんびりすることができ時間を忘れてしまいそうになります。また、私たちが実際に泊まった宿泊施設の裏側にも海岸が広がっており、最終日

の朝には早く起きてメンバー全員で海を見に行きました。その海岸に背を向けると反対側には山があり、日の出を見ることもできました。

訪問二日目には「白糸の滝」で迫力満点の滝もみました。自然に囲まれた空間の中にある大きな滝は日常を忘れさせてくれるようなそんな力がありました。日々の疲れを癒し、たくさんの自然に触れることができる糸島。ほかにもたくさんの自然が多くあります。また糸島を訪れる際には、ほかの自然にも触れることができたらと思います。

◆私たちが行った海・山スポット

- ・二見ヶ浦夫婦岩
- ・芥屋の大門
- ・白糸の滝
- ・森のカフェ 緑の詩

【情報発信グループの活動内容】

Instagramにて糸島プロジェクトの活動状況や糸島の魅力の発信を行いました。糸島市役所の方々の協力を得ながら、糸島市の概要や糸島のおすすめスポットなどの紹介について発信をしました。

◆ 相模女子大学糸島プロジェクト公式Instagramアカウント

<https://www.instagram.com/sagajyo.itoshima2022/>

【情報発信グループの実績】

- ・2年間でフォロワー数を約300名増やした
- ・糸島の観光スポットの紹介や糸島移住者へのインタビューなど計26個の投稿を行った
- ・糸島市役所の方との月一回のZoom会議
- ・素材集めから文章まで一貫して運営

4. 年間の活動を終えた感想

英語文化コミュニケーション学科 3年 田中琴巳

担当：リーダー/情報発信チーム

私は大学二年生と三年生の二回に渡り、本プロジェクトに携わらせていただきました。本年度も参加させていただいた理由といたしましては、就職活動が本格的に始まる中で、何か将来のヒントになるような学びが欲しく参加いたしました。さらに、近年 SNS やテレビなどで話題の福岡県糸島市をフィールドにすることで女性の働き方を研究し、活躍されている方の共通点などを見つけたくこのプロジェクトを志望いたしました。

昨年度で学んだことを生かし、本年度では全体のリーダーとして活動に取り組みました。これまでの人生で私はリーダーというポジションで何かを成し遂げる経験が少なく、本プロジェクトが始まってからはメンバー全員をまとめることが出来るのか不安だらけでした。また、学年や学科が違ったため、そこで私は少しでも距離を縮められるよう密に連絡をすることから心がけました。昨年度では叶うことが出来なかった福岡県糸島市に、本年度では実際に訪れることができ大変うれしく思います。二泊三日、メンバーと同じ時間を過ごすことで、自然と全員とコミュニケーションを取り、仲を深めることができとても嬉しかったです。初めの頃にあった全体のリーダーとしてまとめられるのか不安というものも、メンバー同士で仲を深めることが出来たからこそ、不安も無くなり、メンバーのおかげで私自身まとめる立場として円滑に活動を行うことができメンバーには感謝しております。

また、私は情報発信チームの一員として活動を行いました。糸島市に在住の方にインタビューをした内容を SNS に載せ、糸島市のおすすめスポットなどを紹介する投稿も作成いたしました。作成をする際はメンバーと協力し合い、見やすく統一感のあるような画像を作成するなど細かいところまでこだわることで、お褒めのお言葉をいただくことができ嬉しく思います。自然と糸島市に何があるのか知ることができ、楽しく活動をしながらも大いなる学びを得ることが出来て良かったです。

最後にこのプロジェクトを行うにあたり私たちのサポートをしてくださった糸島市役所の方々、連携教育推進課の方々には大変感謝しております。何度もミーティングを重ねサポートをくださり、訪問当日には私たちが楽しめるようなプランを考えてくださり充実した内容の活動でした。一年間があっという間に終わり、このプロジェクトも終わってしまうことが本当に名残惜しいほど糸島市が大好きになりました。学生時代でとても貴重な経験をさせてくださりありがとうございました。

英語文化コミュニケーション学科 3年 高橋華緒

担当：副リーダー/情報発信チーム

私は本プロジェクトに2年連続参加をしました。参加した理由としまして、色々な経験をし、様々なことを発見したいと感じたからです。去年は新型コロナウイルスの影響で糸島の訪問が出来ませんでした。その中でも、Zoomを通して様々な方々にインタビューをさせていただいたり、本プロジェクトに参加経験のある先輩方とお話したりと交流を持つことが出来ました。しかし、今年度は糸島の訪問を通して糸島のことをたくさん知ることが出来、本プロジェクトは遠く離れた地域と繋がっていることを実際に身近に感じられました。

OGの先輩方からたくさん聞いてきたのですが糸島は「人が暖かい」「働きやすい」などのご意見がありました。それを今回訪問し直接かかわることで感じる事が出来ました。糸島の方々にインタビューした際にはその方の人生経験のお話を聞け、就職活動に向け今後の人生の生き方に対してためになることが多かったです。私は今回2泊3日の糸島の滞在でしたが、自然に触れ糸島の方々と関わることで自分を見つめ直し前向きな気持ちになりました。このプロジェクトを通して、多くの学びがあったので、来年も関わる事ができたら関わっていきたいと思っております。また、プライベートでも何か壁にぶつかった時などに自分の糧として糸島を訪れたいと思います。本プロジェクトに参加でき、とても嬉しく、糸島市役所の方々や連携教育推進課の方々、また、協力して下さった方々に深く感謝をしています。ありがとうございました。

社会マネジメント学科 3年 二反田雪乃

担当：インタビューチーム

私は去年に引き続き、本プロジェクトに参加させて頂きました。去年とはメンバーの人数や雰囲気が変わっていたため始めは戸惑うこともありましたが、ただ、チーム内でコミュニケーションを比較的多めにとったり、困りごとがあれば助け合ったりするなどして徐々に馴染むことができたので良かったです。

今年度は実際に糸島を訪問し、オンラインでインタビューした方に対して再びお話を聞くことができました。オンラインでのインタビューもインターネットで簡単に行えて良いですが、やはり対面でお話を聴かせて頂く方が良いと感じました。対面であると言葉の迫力やインタビューを受けて頂いている方の雰囲気・表情がリアルに伝わってくるように感じ、直接お会いしてお話を伺えて良かったです。糸島の様々な方のインタビューを通して、糸島には他人のやりたいことを後押しする環境や、やりたいことが実現できる環境があることを知りました。首都圏に住んでいると、地域の方はもちろん近所の方であっても興味を示す人は少ないように感じますが、糸島では地域の人と関わり合って、何かをやりたいと明言するとそれを実現するために応援してくれる環境があるように思いました。このような環境があるのは、糸島でやりたいことを地域に支えてもらいながら実現し、その恩返しとして他人の実現したいことについても地域で支えながら実現していくという環境があるからなの

ではないかと思いました。

本プロジェクトに参加して、インタビューや普段のメンバーとのコミュニケーションにおいて学べることが多く、参加前よりも成長することができたように思います。始めは糸島市という、自分の今まで知らなかった場所について発信することの難しさを感じていましたが、知るうちに沼にはまって、2年間継続してプロジェクトに参加していました。また、地元これまで対して関心がありませんでしたが、近所の人と話をしたり、地元の郷土料理を調べてみる等、地元に関心が出てきました。このような関心が出てきたのも、本プロジェクトに参加することができたからだと感じています。

これまで私たちの活動を支えて下さった、久保先生、連携教育推進課の方々、糸島市役所の方々、インタビューを引き受けて下さった方々、本プロジェクト OG の方々、そして今年度のメンバーの方々誠にありがとうございました。プロジェクトでの学びをこれからも活かしていきます。

日本語日本文学科 3年 湯本夏帆

担当：交流会チーム

私は大学卒業後の進路について悩んでおり、海外への憧れと、やりたいことが見つからないまま進行する就職活動に、自分の軸のブレを感じていました。その時見つけたこのプロジェクトは、インタビューを通し多様な働き方と歩み方を知り、今後のキャリア形成に生かせるのではないかと思い、参加を決意しました。

私は糸島市に訪問した OG の方々からお話を聞く交流会チームに所属していました。このチームでの活動は、同じメンバー同士の意見共有・協力がなければ成功できなかったと感じています。前回の引継ぎも特になく、OG の方々の LINE グループと、ミーティング開催日時の目安のみが伝えられた状態から始まる、私たちにとって1からのスタートでした。「どうすればいいんだ」状態の私たちでしたが、今年度の連携教育推進課の担当者・中村さんの手厚いサポートや、他のプロジェクトメンバーから寄せていただいた沢山の質問の数々、そして何より同じチームメンバーのおかげで、ミーティングには当初の予定よりも多い OG の方に参加いただき、非常に有意義な話をたくさん聞くことができました。この交流会チームの活動を通して、人を招いての活動には相手の都合を尊重・重視すること、沢山の方の支援により活動が成り立つことを学びました。

糸島市現地訪問では、インタビューだけではなく市役所の方のご厚意により、現地の風土や食など糸島市ならではの文化を存分に体験することができました。印象的だった食事は、「磯の家」でいただいたお刺身と「牧のうどん」、苺です。肉厚で弾力のあるお刺身は初めてでした。とても新鮮なせいか、魚の臭みがないことに驚きました。また、「牧のうどん」では、はじめてうどんの汁を足す、という体験をしました。太めの麺に海苔と汁がよく絡んで美味しかったです。注文から提供までのスピードも速かったです。苺は、観光課の方がプロジェクトメンバーの宿泊先に持ってきていただいたものです。糸島市に苺のイメージは

ありませんでしたが、丸くふっくら大きくて、びっくりする程美味しかったです。「食べるときは水洗いしないで、繊細だから」と教えて頂きました。最高の状態の苺の香りと甘さは忘れられません。

インタビューでは、自分が納得をもって選んだ選択・仕事でなければ長く続けられることはできない、ということ強く感じました。元々社会人をされていた方や、世界を見てきた方などのキャリアを聞き、大学卒業後に就職することだけが、「正解」ではないということを感じました。私が参加したきっかけである「自分の軸」の無さでしたが、その軸を見つけるにもすべては行動力から始まる、ということ学びました。

インタビューから分かった糸島市の魅力もあります。本当に多種多様な経歴をもった方々は皆、糸島市民の寛容さや人助けの心など、「人の魅力」を選ばれたとおっしゃられています。私も市街地散策の際、たまたま通りかかったお店の方が、お勧めの飲食店をお店の前まで案内してくださいました。また、アポなしで訪ねた白糸の滝の道中のカフェでは、営業時間が過ぎてしまっているのにも関わらず、店内や、森を開拓して自給自足の取り組みをしているなどのお話を沢山していただきました。短期間の訪問でしたが、糸島市の人の温かみを沢山感じ取りました。現地訪問しなければ分からなかった魅力が沢山詰まった時間でした。

私が本プロジェクトに参加した理由である自分の軸探しですが、自分のやりたい事を恐れずにチャレンジすることの背中を押してもらいました。また、糸島市の食べ物、文化、人の好きを堪能することができました。

今回の糸島市訪問で、一緒に行くことができなかったメンバー1人と今年の夏にまた訪問する予定です。

食物栄養学科 1年 松岡亜優

担当：インタビューチーム

私は、大学生活で何か挑戦してみたいという想いでこのプロジェクトの参加を決めました。入学してからまだ学校にも慣れていない中、新しいことに挑戦することには戸惑いもありましたが、このプロジェクトに参加したから経験できたことや、人との交流で人の温かさを感じることができ、勇気を振り絞って参加を決めて本当に良かったと思いました。

私は、インタビューチームとして、糸島市の方でインタビューしたい人を探し、インタビューのアポ取りをしてインタビューを行いました。糸島市役所の方たちをはじめ、働いている社会人の方へのメールでの交渉などのやり取りや、オンラインでのインタビューは、初めてのことばかりで、試行錯誤や相談をしながらでした。ですが、私にとっては学校やアルバイトだけでは体験することのできない貴重な経験をすることができました。

糸島市の方たちのインタビューを通して、自分のやりたいことに挑戦し続け、一生懸命に仕事に取り組む人たちはきらきらしていて、直接お話を聞いたのはこれから働く私にとっては刺激的で、大切なことを学べたと思います。

また、学年学科も違うプロジェクトメンバーの、話しやすい環境やコミュニケーション、取り組む姿勢など見習いたいことが沢山あり、このプロジェクトに参加したからこそ経験できたことだと思いました。

このプロジェクトで、糸島の魅力と人の温かみを体験することができました。今後はプロジェクトで経験した人の温かみを自分もできるような人になりたいと思いました。私自身このプロジェクトを通して一步、挑戦することができたと思います。ありがとうございました。

日本語日本文学科 3年 木島奈穂

担当:インタビューチーム

糸島プロジェクトは約1年間を通して行われました。私は1年間を通して、糸島の魅力を知ることができるのはもちろん、特に訪問までの準備と訪問後のまとめの作業で、目上の方とのコミュニケーション力であったり、メンバーと協力しながら1つのことをやり遂げる力が身に付くと感じました。

私はインタビューチームに所属していました。インタビューは、オンラインと訪問の2回行ったのですが、インタビューをさせていただく方とメールで日程調整を行いました。インタビューさせていただく方のご都合と自分たちのスケジュールを上手く合わせることに、そしてこちらの状況を相手に伝えるにはどのような文章が分かりやすく適当であるのかと苦戦しました。私は職員の方や同じチームのメンバーに手助けをしてもらいながら無事終わることができたのですが、このやり取りは人生経験の少ない自分にとってとても貴重でこの先に役立つと感じました。

糸島の魅力ですが、私は糸島訪問に参加することができなかったため、オンラインインタビューなどから感じたことを述べたいと思います。

オンラインインタビューをさせていただいた方に、糸島の魅力をお聞きすると、どなたも「人が良い」と答えていらっしゃいました。糸島に移住された方にインタビューをさせていただいたのですが、東京という都会から移住をされた方、世界一周をして糸島に移住を決めた方がいらっしゃいましたが、人との出会いが大切だと教えていただきました。

また、交通の便が良いと教えて頂いたり、実際に糸島に訪問したメンバーから、空気が綺麗だったと聞き、糸島は優しい人が多く、自然が多く、空気が綺麗で交通の便にも困らない、そんな印象を持ち、移住するには最適の場所だと感じました。

英語文化コミュニケーション学科 3年 市川晴奈

担当:インタビューチーム

私は本プロジェクトを通して、実際にお会いしてインタビューすることができ、自分の人生での指針に変化がありました。糸島市の方々と直接関わることで、人々の温かさに触れ、

前向きな気持ちになることができました。糸島市の方々は、ありのままの自分を大切にし、得意なことや好きなこと、自分のやりたいことを自由にやりながら生きているという印象を持ちました。自分の中にある根本の軸をしっかりと持っていて、好きな自分である姿に刺激を受けました。そして、私の今後の人生における道筋を示していただきました。人生の中でやりたくないことや嫌いなことを、どうしても成し遂げなければならない場面に直面した時に、嫌々取り組んでしまいますが、好きなところを見つける努力が重要であると思いました。短所を見つけるのではなく長所を見つけることで、自分の武器を増やし、日々の成長につなげることもできると思います。また、生きていく上で、悩みはつきもので、ネガティブになってしまうこともあります。常に自分が楽しいと感じることを追求し、挑戦し続けることで多くのものを得て学びにつなげていきたいと思いました。自分自身の感性を大切にし、本当の自分の感情と向き合いながら生きていきたいです。自分と向き合う時間を大切にし、常に振り返りの場を設け、今の自分には何が必要で何がしたいのかを明確にしたうえで、目標を掲げ一度きりの人生、やりたいこと挑戦したいことは積極的に取り組んでいきたいと思えました。周りに頼りたい時は周りについていき、自分で進む時は勇気を出して行動する、この切り替えができるよう、得た学びを心に留め、日々成長していきたいです。

日本語日本文学科 3年 秋山智加
担当：情報発信チーム

大学生活3年目にして自分が正課外活動を何もしていないことに気づき、何か新しいことに挑戦したい、就職活動が本格化して進みたい道を模索している中で自分の将来の幅を広げるきっかけがほしい、と思ったときに見つけたのがこのプロジェクトでした。そこで何かやりたいことが見つかるのではないかと、自分自身成長できるのではないかと本プロジェクトに参加しました。

本プロジェクトでは、情報発信チームとしてSNSを通じて糸島の魅力をたくさんの人に伝えるという活動を行いました。どのような画像なら目に留まりやすいか、画像は見やすいかなど、投稿ひとつひとつにさまざまな工夫を凝らしました。また、キャプションの言葉遣いが適切かなども気をつけました。1つ1つの投稿は投稿する前にチーム内で確認して、協力しながら活動を行いました。さらにこれらの工夫によって、より多くの人に本プロジェクトと糸島の魅力を知ってもらえるよう心がけました。

また、糸島市に実際に訪問して、人との繋がりの大切さを強く感じました。4人の方にインタビューをさせていただいた中で、皆さん口を揃えて言っていたのが「ご縁」です。糸島で暮らす方々はお互いの距離が近くて、町全体が1つの輪のようでした。みんなが人と人との繋がりを大切にしているから、人の温かさも伝染して、外から訪れた私たちも温かい場所だと感じられたように思います。

最後に、プロジェクトメンバーやプロジェクトOGの方、糸島市で暮らす方々など新たな

出会いにも巡り合えました。様々な人との交流を通して、物事に対する考え方や感じ方、生き方は人の数だけあるのだと感じました。本プロジェクトで感じた「ご縁」というものを、対人だけでなく対ものでも大切にしながら、生活していきたいと思います。

メディア情報学科 3年 新井美鈴

担当：情報発信チーム

私は就職活動を行っていく上で自分自身のキャリアについて考えるきっかけになると思い、このプロジェクトに参加しました。プロジェクトが始まった当初、ミーティングはオンラインで行われ、また11人という全員が揃うことはほとんどありませんでした。私はメンバー唯一のメディア情報学科ということで、情報発信チームに所属しました。糸島市を盛り上げて行くために私たちができることは何なのか。お互いほとんど面識もなく、オンラインではありましたがチームのみんなと話し合いをしました。どんな内容のものをいつ投稿するのか話し合いの中で決定しても、それはなかなかうまく進まず、予定の投稿日より遅れてしまうことも多くありました。顔を合わせてコミュニケーションをする場が少なかったためチームワークを構築するのなかなか難しく苦労しました。そんな中、糸島訪問の日が来ました。私は正直不安が大きかったです。半年以上活動してきているにもかかわらず、このプロジェクトに参加している半分以上の人と話したことがなかったからです。しかしそんな不安はすぐにはなくなりました。空港で初めて全員と顔を合わせ、少しずつコミュニケーションを取り始めるとあっという間に距離が縮まり、さらには慣れない場所でメンバー全員と寝食を共にするという環境に置かれていたこともあり、全員がお互いを支えながら過ごすことができました。現地ではインタビューを行ったり、市長の前でお話したり初めての経験でしたが、就職活動をするうえでとても良い経験ができたと感じています。キャリアについても、現地でインタビューを行った中村さんの言葉がとても印象に残っています。「大学に行って就職する人がすごく多いけれどそれが当たり前ではないと思う」就職活動で悩んでいる私たちにそう言ってくださいました。寄り道したって良い。自分の人生なんだから、自分が正解だと思う道に進めば良い。キャリアを考えるにあたってすごく大事なことを教えていただきました。この糸島プロジェクトを通して、顔を合わせたコミュニケーションの大切さ、キャリアの考え方について深く学ぶことができ、糸島の良さを、身をもって感じることができました。私たちが感じた糸島の魅力をこれからも発信することができたらと思います。

英語文化コミュニケーション学科 3年 相原琴音

担当：交流会チーム

私が本プロジェクトに参加した理由は、何かに挑戦したいと強く思ったからです。また実際に現地の糸島市に行けるということで、直接的な体験が大学入学して初めてだったため、訪問前から楽しみにしていました。

担当の交流会では、リーダーを務め、交流会の企画から開催までを行いました。当初 OG の方との予定が合わず、最初に開催予定だった日程に開催できませんでした。しかしチーム内でもう一度どうしたら人が集まってもらえるのか、またその他のメンバーのアドバイスも含め改善に心掛けました。そうしたことで結果的に合計 3 回開催し、OG の方にも来ていただけました。無事開催でき嬉しく、また失敗の経験が成功に近づけたんだと感じました。今となってはこの経験があって良かったと思っています。

実際の訪問では、交流会で OG の方が言っていたように自然豊かで、人が優しく何事にもポジティブに挑戦している方が多く、改めて行って良かったと感じています。また、コロナウイルスの関係でプロジェクトメンバー全員に会える機会がなかったのですが、訪問で仲が深まり、交友関係も広くなりました。学部・学科・学年問わず仲良くなれたので、これも糸島プロジェクトのおかげだと感じています。またプライベートでも糸島市にきて、糸島の人、地域の良さを他の人に届けられたらいいなと感じました。

最後に糸島市の方含め、連携教育推進課の皆様、プロジェクトメンバー、ご協力してくださった方に感謝申し上げます。ありがとうございました。今回の体験は一生忘れません。

この学びを将来に活かしていきたいです。

改めてありがとうございました。

日本語日本文学科 3年 渡辺采馨

担当：OGとの交流会チーム

私は、本プロジェクトに参加して、自分自身の成長に繋がることができたと感じます。今まで、コロナウイルスの影響で思うような活動もできなくて、人との関わりが少なくなっていたのですが、このプロジェクトを通して、他学科との関わりや、糸島市の方とのインタビュー、OGの方との交流など、たくさんのコミュニティに参加することができ、とても有意義な時間を過ごせることができました。

OGとの交流会も、最初は中々日程が合わず、インタビューの内容、全体の進行内容など、準備するのにも苦戦しましたが、メンバーの支えがとても有難く、無事に楽しく交流会を開けたと感じています。去年の交流会を参考にさせてもらって、全体の内容を決め、新しいレクリエーションを用いたり、何度も ZOOM や、大学での対面の打ち合わせを繰り返して、用意してきました。糸島市でのプロジェクト活動、就職活動など多岐に渡る質問をさせていただき、私自身のこれからの人生の選択肢が開けて、とても良かったです。このプロジェクト活動での経験や、学び、出会いを大切にして、これからの将来に繋げていきたいです。有難うございました。

英語文化コミュニケーション学科 3年 板敷華花

担当：OGとの交流会チーム

私が糸島プロジェクトに参加した理由は、大学生のうちに何かしたいと考えていたからです。大学3年生になり、現地へ訪問できると知り、参加を決意しました。このプロジェクトを通して、就職活動を始めて感じた自分の将来の不安が解消され、経営者の方からは前向きな言葉を多く聞くことができました。興味を持ったことや、したいと迷っているならば行動することがより大事だと学びました。私は情報発信グループに所属し、インスタグラムを運用していました。活動当初は、他学科の方達とごちなかつたのですが、現地訪問をして仲が急激に深まったと感じます。また、情報発信グループだけでなく、交流会チームやインタビューチームの方々とも沢山話をし、楽しい時間を過ごすことができました。コロナ禍に入学してから、不安な大学生時代でしたが、このプロジェクトに参加してやりがいを感じ、思い出を作ることができてとても良い経験になりました。

5. お世話になった方々のご紹介

本年度の活動を行う上で、お世話になった方々をご紹介します。今年度の「女性のはたらき方研究プロジェクト」は、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、3年ぶりに糸島を訪問することができました。実際に糸島を訪問して学べたことがたくさんありました。ここまで活動を行うことができたのは多くの人の温かいサポートがあったからです。お忙しい中にもかかわらず、インタビューを快く引き受けてくださった方々、女性のはたらき方研究プロジェクトを全面的にサポートしてくださった糸島市役所の方々や相模女子大学のご担当者に心より感謝申し上げます。また、プロジェクトを通して出会えたメンバーにも感謝いたします。

糸島ゲストハウス 前原宿ことのは

野北 佳奈 様

宮城県仙台市出身。東京で会社員として働いていた時に、同じく東京で働いていた糸島市出身の智之さんと出会い、結婚。夫婦で 2014 年 12 月～2015 年 11 月、1 年間の世界一周の旅を経験する。2015 年 12 月に糸島市へ移住し、2016 年 8 月、筑前前原駅前にゲストハウス「前原宿（まえばるしゅく）ことのは」をオープン。

<https://www.instagram.com/itoshima.kotonoha/>

<https://itoshima-guesthouse.com/>

https://ijuu-teijuu.pref.fukuoka.lg.jp/interviews/vol_48.html

株式会社「まんま」

中村 真紀 様

東京の外資系企業の経営者を経験した後、2020年9月に株式会社「まんま」を設立。2020年6月から4か月間、東京と糸島の2拠点生活を経験し、2020年12月に糸島に移住。大好きな糸島の自然に囲まれながら「顔の見える本屋さん」等、ビジネスや地域活動など多岐にわたる活動に挑戦している。

・HOME - 「ありのまま」で生きたい人を応援する「株式会社まんま」
(mamma.company)

café lily (カフェ リリー)

眞木 由利佳 様

高校卒業後、オーストラリアでコーヒーを学ぶ。カフェ開業の夢を持ち、帰国。母親の元でパティシエ修行をした後、伊都安蔵里にて「café lily」を開業。地域に親しまれるカフェを運営している。

- ・HOME (google.com)
- ・café lily (カフェリリー) | 伊都安蔵里 (いとあぐり) - 糸島市 (itoaguri.jp)
- ・café lily (カフェ リリー) (@[cafelily_itoaguri](https://www.instagram.com/cafelily_itoaguri)) • Instagram 写真と動画

九州熱風法人よかごつ

大堂 良太 様

熊本県出身。「地域にひらかれた」地域交流型学生寮の運営開始に伴い、2017年4月に糸島に移住。現在は寮の運営で学生のサポートを行うと同時に、「顔の見える本屋さん」や「秘密じゃない基地トムソー屋」(駄菓子屋)等の運営も行っている。

・トップ - 九大生向け学生寮 ”ようこそ、地域にひらかれた学生寮へ” (全7棟) 告知
⇒2023年3月、女子専用寮オープン (yoka-gotsu.co.jp)

(・九州熱風法人よかごつ (@[yoka_gotsu_llc](https://twitter.com/yoka_gotsu_llc)) さん / Twitter)

(・九州熱風法人よかごつ | [Itoshima-shi Fukuoka](https://www.facebook.com/Itoshima-shi-Fukuoka) | Facebook)

駒沢大学

村上 花音 様

糸島市出身。大学入学を機に東京に上京。地元が大好きで、東京に住みながら糸島を発信する活動「糸ドコ。」、「meets 糸島」等の活動を行う。市議会議員に議員から見た糸島を勉強しに行くなど、地元に対する行動力や熱量を持って日々活動を行っている。

・花音 / Hanane(@melon_87chn) • Instagram 写真と動画

・糸ドコ。(@itoshima_doko.03) • Instagram 写真と動画

・meets 糸島 | ミーツ糸島 (meets-itoshima.com)